



松南地区の戦後を学ぶ 地域学習会が発足

館報編集委員長 塩原保彦

7月5日、松南地区の地域学習会が発足しました。地区9町会の町会長、町内公民館長、公民館報編集委員が発足を開催し、決定しました。

戦時中の本地区は、軍需の町でした。日本ステンレス、宮田製作所、石川島芝浦タービンが町をつくっていました。終戦後、これらの会社は閉鎖され、新たな会社が進出し、町ができ、松南地区となりました。

国道19号バイパス化により商業地化が進み、さらに大型店が進出し、郊外型の商業地区に転換しています。

軍需工場の跡地の一部や住宅跡は、公営住宅が多く建てられ、さらに民間のアパート、マンションが乱立する地区となっています。



復興期の子供たち(背景は社宅か)

戦後できた松南地区の歴史を振り返り、地区の誕生を知り理解することの必要性を感じ、学習会を立ち上げました。戦中戦後の記憶が薄れる中、当時を知る人の話を学習会で聞けないものかとも考えています。今、資料集めをしなければ、地区の戦後を知る手段がなくなってしまう不安もあります。地域に関心があるが、地域を知らない住民が多く、「地域を学び、創る」文化活動として、学習会を位置付けています。

元社員の原元勝さん、元毎日新聞東京本社編集委員の馬場雄治さんから伺いました。

Q 松本でも有力な企業だったのですか。

馬場 給与は毎日新聞社並みだったらしく、社宅の改修工事では、東京から工務店が出張し、社長や重役の住宅には、松本で初めて水洗トイレを入れたようです。重役は里山で狩猟を楽しんだそうです。

Q 地元の方で、「白濁水問題」を記憶されている方がいますが、どういうことですか。

原 製紙の過程で出る白濁した有害な廃水が、穴田川を汚染しました。昭和29年に問題となり、松本の公害1号でしようか。スウェーデン製の浄化装置を導入し、解決しました。私は、装置の配管設計・施工を行いました。

馬場 Q 昭和40年代に入ると会社は閉鎖に向かうのですが、どうしてですか。

馬場 大昭和製紙、王子製紙

シリーズ 戦後の松南地区 その2 インタビュー 松本製紙株式会社 編②

本州製紙など製紙専門の会社が、戦中戦後の苦境から復活成長し、毎日新聞社では自社生産が割高となり、製紙会社から買うという方向転換をしました。

原 昭和43年に閉鎖しました。退職金は世間相場

の2倍くらい支給されました。従業員の失業対策のため、毎日新聞社は関連会社への再就職の道を開き、多くの仲間が新しい職場へ赴きました。また新しく第二松本製紙という会社を設立し、「再生紙の開発」という新事業を展開しましたが、難題が多く3・4年で閉鎖しました。その後、労働組合の方々が中心となり、市場団地で「チリ紙」生産の企業を興し、何年か継続しましたが、経営は思うようにいかなかったようです。

Q 松本製紙の跡地はどうなったのですか。

原 正門のあった北側に赤羽産業、東に協同乳業、西に日穀製粉やタケヤ味噌、鍋林ができてきました。そういえば、日穀製粉への引込線は、松本

製紙が敷いたものです。

Q 当時を知る方をご存知ですか。

原 松本製紙は出川、並柳、井川城の方がたくさん働いていましたので、少ないでしょうが詳しい方がまだおられるかと思えます。



昭和30年代の工場全景(北から望む)



高松宮杯東海大会出場(昭和37年)

【訂正】前号に記した「焼失した中央公民館」は、「松本第二公民館」でした。

松南の夏



▲食育講座 (ネギの植替え)



▲朝の元気! ラジオ体操 (双葉西)



▲子ども達の今を語る 地域ケア会議



▲子ども達の今を語る 地域ケア会議



▲衛生部のクリーンセンター見学会



▲いつも人気のポリジ・マルシェ



▲「二胡」に聞き入るふれあい健康講座



▲マスキングテープで小物づくり



▲ワンバウンドふらばーるバレー



▼初挑戦! キンボール



▲おまんじゅうづくり

信明中学校 地域出前講座

▼ポッチャにはまる!

信明中学校の地域出前講座は、コロナ禍で室内活動はほぼ全休状態ですが、屋外活動のマレットゴルフは大変盛んです。

平成23年に発足した町会マレット会は、現在籍会員26名、90歳以上の方もおられます。例会は、冬季オフシーズンを除いて、毎月、公民館活動で1回、会員活動で2回です。マレットゴルフをご存じでない方もおられると思いますので、勧誘の意で紹介させていただきます。

ルールはゴルフとほぼ同じで、少ないショット数で目標の穴への到達を競います。18ホールで約三〇〇〇歩になり、健康増進に良い運動量です。

チーム競技ではありませんので、足を引っ張って仲間には申し訳ない思いをすることはありません。親睦効果が抜群です。毎回、表彰式を公民館で行っていますが、順位は実績と「くじ」を総合して決めますので、誰でも入賞の機会があり、皆さんとても楽しみにしています。(川上 磊象)

わが町の おたのしみ



(石川 博子)

運営委員の皆さんは、「活動の継続と後継者の育成のためにも、多くの人を集まってほしい」と願っています。

お茶を飲みながらの語り、子ども達との交流、生花教室など、楽しい時間を共有しています。歓談する中から、高齢者の持つ不安や問題点が明らかになり、それらの解決のために、交通安全・特殊詐欺防止・健康維持体操などの講座も開いてきました。

家に籠りがちな高齢者が「自由に来て、自由に過ごせる」喫茶店のような場を... 「サロン宮田中」は平成27年に発足しました。毎月第二火曜日の午後、コロナ禍の今も対策を講じて実施、9月には68回になりました。

●宮田東町の公民館活動

●「サロン宮田中」